

日本家族社会学会ニュースレター

No. 20 1998. 5. 15. 編集・発行 日本家族社会学会事務局
〒192-0364 八王子市南大沢 1-1 東京都立大学人文学部社会福祉学科石原研究室
電話：0426-77-1111(内 1331) FAX：0426-77-2124
0426-77-2129(直通)

NEWSLETTER

日本家族社会学会 第8回大会のご案内

(実行委員会ニュース：No. 1)

日本家族社会学会第8回大会実行委員会

〒631-8502 奈良市山陵町 1500

奈良大学社会学部内

委員長：光吉利之

第8回大会についてお知らせします。

1. 大会日程：1998年9月19日（土）～20日（日）
2. 大会会場：奈良大学
(1) 近鉄京都線「高の原」駅から、奈良交通バス「奈良大学」行または「学園前駅」行に
乗車、「奈良大学」下車、徒歩1分。
または、「高の原」駅から徒歩20分。
(2) 近鉄奈良線「学園前」駅から奈良交通バス「高の原駅」行に乗車、「奈良大学」下車、
徒歩1分。
3. 大会参加費
一般会員：4,000円 学生会員：3,000円
4. 大会・懇親会への参加申し込みと振込み
大会・懇親会への参加申し込みは、7月中旬に発送予定のお知らせ（実行委員会ニュースNo.2）に同封する葉書でお願いします。なお、その際、参加費の事前振込みのご案内も同封します。
5. 宿泊：各自で手配をお願いします。ご参考までに、ホテルなどの一覧を同封しました。
6. 実行委員会事務局：奈良大学社会学部・間淵領吾研究室
電話：0742-41-9552（FAX 兼用留守番電話）
電子メール：

7. 大会プログラム

第1日（9月19日 土曜日） 午前：ラウンドテーブル
午後：テーマセッション
総会
懇親会

第2日（9月20日 日曜日） 午前：自由報告
午後：シンポジウム

詳しい時間などは検討中です。ラウンドテーブル、テーマセッションについては、すでに募集を締め切りましたが、申し込みが少なく、研究活動委員会としても頭を痛めています。ラウンドテーブルの話題提供、テーマセッションの企画などありましたら、至急研究活動委員会の望月までお知らせください。また、自由報告については締め切りが迫っています。こちらもふるって応募くださいますようお願い申し上げます。

理事会報告

委員会から

編集委員会

特集号(10-1号)を予定通り年度末までに発行することができ、ほっとしています。多くの会員の皆さんには、文献リスト申請に協力をいただきありがとうございました。申請にそって細心の注意を払って編集しましたが、申請上のミスや入力・校正・編集上のミスによる誤りがあると思います。誤りや不備な点に気づかれた方は、今後の学会ニュースなどで連絡先をお知らせいたしますので、ご一報ください。

前号の学会ニュースでは、会員の方からの要望を受け、『Sociological Abstracts』誌などへの掲載を考慮中であると報告しましたが、『Sociological Abstracts』誌から本誌論文の英文要約の掲載の承認を得ることができました。さらに、『Current Contents of Academic Journals in Japan(CCAJJ:学会誌刊行センター刊)』誌への英文タイトルの掲載も決定しました(創刊号より収録)。この雑誌は『学術雑誌目次速報データベース』と情報が連動し、自動的にそこにも収録されます。

これらの雑誌に掲載されるには、英文要約を各論文ごとに載せ、和文・欧文の双方による執筆者の肩書きや連絡先を明記することなどが要件とされています。そのために、論文掲載の形式を変更し、執筆要項を改訂する必要が生じています。編集委員会では目下、通常号(10-2号)の編集に取りかかっていますが、これを機に、執筆要項の全体的な見直し作業も同時に行なっています。

これまでに、執筆要項に則らない原稿が提出されている場合が少なからずありました。毎回、編集委員会では膨大なエネルギーを使って、それらを修正してきました。

今後、改訂された執筆要項をよく読んで執筆・投稿して下さるように、会員のみなさんに心からお願い申し上げます。

(善積京子・追手門学院大学)

全国家族調査委員会

全国家族調査研究会では、3月に『全国家族調査項目インベントリー』を発行しました。研究会の活動を形にして、今後も成果を積み上げていきたいと思っています。

また、予備調査の分析も進み、3月には活発な研究会も行なわれました。

今年度は本調査の実施を視野に入れて、活動をさらに押し進めることとなります。研究会メンバー、および会員のご協力をおねがいします。

なお、渡辺秀樹の出張にともない、委員長代行を藤見純子委員にお願いすることになりましたのでお知らせします。期間は4月末から8月末の間です。

(渡辺秀樹・慶応大学)

「全国家族調査」が企画されて以来毎年度、文部省科学研究費を申請してきましたが、このたび4年目にしてようやく申請が採択されました。将来にわたって、日本家族の基礎的動向の一端を精確かつ信頼できるデータとして累積していく試みの第一歩が踏み出されます。委員会および研究会としては、後悔を残さない旅立ちをするよう努力するつもりです。

(藤見純子・大正大学)

1. 事務局業務の外部委託と財政問題

理事の交代とともに、事務局も現在の都立大から他のところへ移行することになりますが、以前から、事務局の負担の大きさが担当者（機関）を決めるにあたっての大きな障害になっています。多大な労力を伴うルーティンワーク的な業務の部分を外部委託することは、家族社会学セミナーから学会へ切り替えたとき以来の課題でもありました。今期理事会は、この課題を引き継ぎ検討を試みた結果、幸い、かなり安い費用で引き受けたいという業者を見つけることができました。3月の理事会では業者から提出された見積書を基に検討し、実施へ向けて、さらに細かい検討を続行することで意見の一致をみました。

しかし、見積もりがかなり低いといっても、残念ながら、現在の学会の財政状態では、実行不可能です。その意味では、どうしても財政問題を含めて検討せざるを得ない問題であることを、率直にお知らせしておきたいと思います。

財政の立て直しは、まず無駄な支出の切り詰めから始まります。これについては、これまでも極力努力してきたつもりですが、なお一層心がけるつもりです。しかし、現在の支出増は学会活動の活発化によるところ大であり、発展してきた学会活動を支出の切り詰めのために大幅に後戻りさせるわけにはいかないと理事会は考えています。

財政立て直しのためのもう1つの手立ては、収入増を図ることです。収入増を図る途としては機関誌の販売促進が考えられます。これは、累積した在庫のヤマが事務局委員の個人研究室の空間を著しく占拠するというこれまでの問題状況を打開するためにも有効な方策です。これまでのところ、日本社会学会大会会場などで販

売活動を行い、かなりの成果をあげることができました。今後は、庶務委員会の機関誌販売促進担当理事とも連絡を取り合って、その他の学会大会にも進出するべく努力中です。しかし、それでもなお、事務局業務の一部を外部委託する費用は捻出できそうもありません。

そこで、最終的には、会費値上げの問題が避けて通れないことになろうかと思えます。事務局を運営する一部の会員に非常な負担を強いる現在の構造を改善した上で、次期事務局への引継ができるよう願っています。

2. 出版者著作権協議会からの複写料の配分金について

本年2月に、出版7団体によって構成されている著作権協議会から、平成4～6年分の複写使用量の学術団体への配分金として、10万円を振り込む旨の通知がありました。これは本来、出版物の著作権者に支払われるべき複写使用料が、實際上そのように支払うことが困難であるため、次善の策として、著作権団体または学術団体に分配して、間接的に還元しようとする考え方によるものです。学会運営の側からしますと大変ありがたい処置です。今回の受領については3月の理事会でも承認されましたが、個々の会員の権利に関わる事柄ですので、総会の場合でも改めて協議していただくことになっています。

3. お詫び

前号ニュースの「会員異動」欄で、新入会員の方のお名前が一部、手違いで落ちていました。本号の同じ欄で訂正して掲載させていただきました。お詫びいたします。

(石原邦雄・東京都立大学)

會員異動

編集後記

当初 4 月 20 日を予定していましたが、発行がまたしても遅れてしまいましたが、20 号をお届けします。本号には、第 8 回大会のお知らせ、2 回にわたる理事会内容の報告、第 7 回大会の会計報告、2 つの委員会からの報告、そして事務局からの伝達などが含まれています。なお、エッセイ欄「北から南から」は都合により休載させていただきました。

今期の学会ニュースはこれまで、西野理子事務局委員の協力で作成してきましたが、本号作成期間は西野委員が一身上の都合で休みのため、代わって嶋崎尚子会員にお力添えいただきました。記して感謝致します。

(藤見純子・大正大学)